

誰もが 自分らしく 生きられるまち

セクシュアルマイノリティ(LGBTQ)

～ わたしたちはここにいる ～



自分のところとからだの性に違和感がなく、異性が好きな人ばかりではありません。同性が好きな人、異性も同性も好きな人、自分のところとからだの性に違和感を覚える人など、多様な性（LGBTQ など）が存在します。

どのような性別の人を好きになるか（性的指向）や、自分の性をどのように認識しているか（性自認）を理由とする偏見や差別に苦しんでいる人々があります。こうした性的指向や性自認を理由とする偏見や差別をなくし、多様な性（LGBTQ など）についての理解を深め、誰もが自分らしく生きられるまちにするために、みんなで考えて、できることから始めましょう。



大和郡山市人権施策推進課

〒639-1198 奈良県大和郡山市北郡山町 248-4

電 話：0743-53-1151（代表）

W E B： <https://www.city.yamatokoriyama.nara.jp/>

発行日：2019 年（令和元年）7 月

性の要素は様々・・・



身体の性・・・生まれながらの生物的な性別
 性 自 認・・・自分の性別をどう認識するか
 性別役割・・・社会で求められる「男らしさ」「女らしさ」
 性別表現・・・服装やふるまい、見た目
 性的指向・・・恋愛や性的関心の対象
 法的性別・・・戸籍などの法律上の性別
 ※分野によって様々で、6つとは限りません。

LGBTQ (エル ジー बी ティー キュー)・・・とは



Q (クエスチョニング)

わからない、典型的な男・女ではないと感じる人

X (エックス) ジェンダー

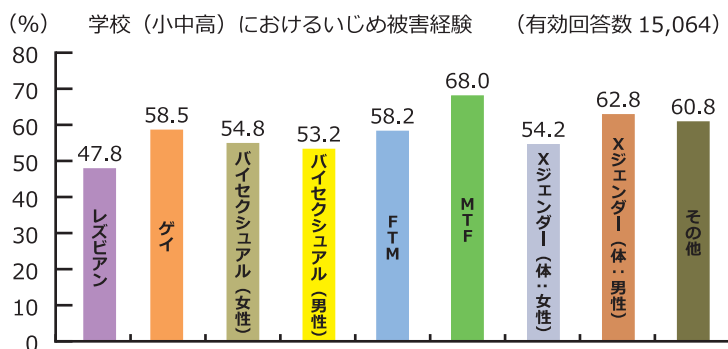
性別認識が男か女どちらか一方ではない人

A (ア) セクシュアル

性愛の対象を持たない人、または性的欲求そのものがない人

◆「LGBT当事者の意識調査 REACH Online 2016 for Sexual Minorities」

小中高校の学校生活において、全体の約 6 割 (58.2%) にいじめ被害の経験がありました。被害を受けた人の内「ホモ・おかま・おとこおんな」などの言葉によるいじめ被害は 63.8%、服を脱がされるなどの身体的いじめ被害は 18.3%、不登校経験者 21.1%、自傷行為経験者 10.5% でした。



※MTF：男性として生まれ、性自認あるいは性別表現が女性の人

※FTM：女性として生まれ、性自認あるいは性別表現が男性の人

セクシュアルマイノリティ当事者の声 ～市民の声からみえる困りごと～

《課題と背景》

- ・肯定する情報がないので、自分を受け入れにくい（＝自己否定）
- ・ありのままの自分を出しにくい
- ・モデルがなく将来への希望が持ちにくい
- ・助けを求めにくく孤立しやすい（アクセス困難）
- ・差別・偏見、いじめや暴力被害
- ・「男か女のどちらか」で異性愛前提の環境では不便や不利益が多い

《Point》

- ・L/G/B/T/Q・・・に限らず、性のありようや表現は多様
 - ・「ホモ」「レズ」「おかま」などは、侮辱・差別的に使われることが多い言葉
 - ・「何者であるか」は見た目では判断できない。勝手に決めつけない
 - ・「あたりまえ」「常識」も変わる。あなたの「あたりまえ」を見直そう
- ※これらはあくまでも作成時に整理したものです
情報は常に確認し更新していきましょう

■ セクシュアルマイノリティ（性的少数者）

性的指向、性自認、性別表現等において「典型」あるいは「多数」とは異なる性のありようをもつ人たちの総称

■ レインボーフラッグ

6色の虹は性の多様性を表しています

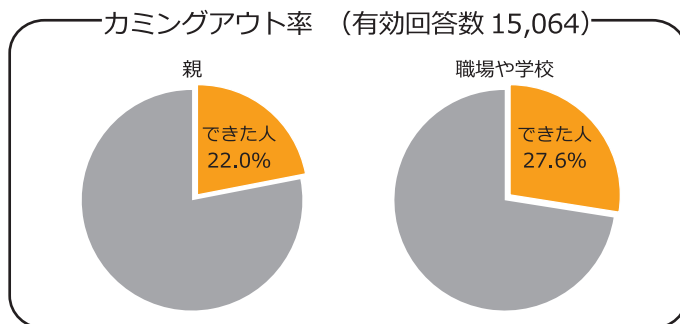


セクシュアルマイノリティの現状

カミングアウト率が低いにもかかわらず、全体的にいじめ被害の経験率は高い状態です。おそらく、何者であるかということが明確でないままに、異性が好きではない、性別規範（男らしさ、女らしさ）から逸脱するなど、人とは異なってみえることがいじめの原因となっている可能性があります。学

齢期の支援においては、L/G/B/T かどうか、何者かということにとらわれず、いわゆる「男・女らしくない」など、性別表現が非典型的に見える子どもたちに対する観察や見守りが大切でしょう。

カミングアウト率（有効回答数 15,064）



出典

◆ 日高庸晴「LGBT当事者の意識調査 REACH Online 2016 for Sexual Minorities」

LGB

恋愛話がすごくしんどかった。



異性愛者のフリをする緊張感。



先生に「もっと男(女)らしくしなさい」と言われた。

同性パートナーが家族扱いされない。

「結婚は?」「彼女(彼)は?」と聞かれるストレス。

異性愛者前提の苦痛や不安

T

トイレが困った。



ランドセルの色、制服……。とにかく男女分けが嫌だった。

性別欄を見て、いつも本人かどうかを疑われる。

修学旅行のお風呂、水着や着替えが苦痛。

身体の性別に合わせる苦痛や苦労

もっと早く情報があれば、悩まずにすんだのに!

家族には負担をかけそうで言えない。

誰にも言えない孤独。



「ホモ」「おかま」「気持ち悪い」と言われた。

ずっと嘘をついている気分。



ずっと自分は「変なんだ!」と思っていた。

将来に全く希望がない。

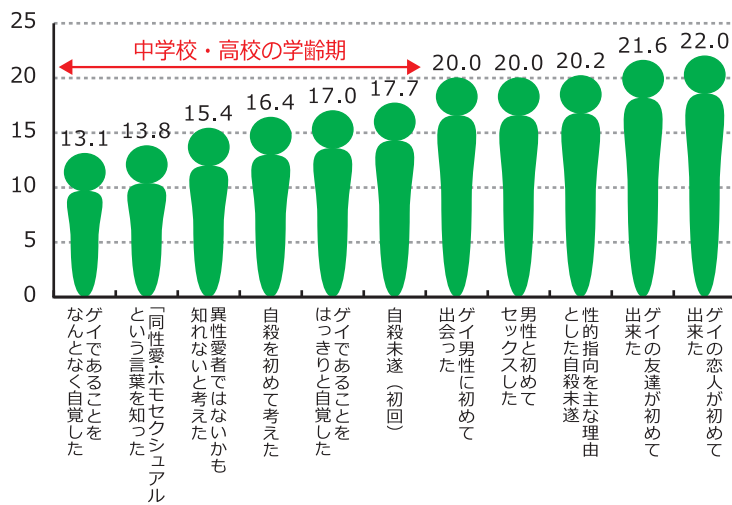
同性が好きだと気づいてショック! 死んじやいたい!

自己否定や葛藤、将来への不安

◆ゲイ・バイセクシュアル男性の調査

思春期の頃に自覚し始めた当事者が、自覚が深まるに従って自尊心が低下していく経過、実際にゲイ男性に出会うまでの10代の孤独な状況が伺えます。自覚以降の支援も必要ですが、当事者が自覚する前の早い段階から「同性を好きな子もいる」「好きもいろいろ」など、肯定的な情報を知ることができる環境や教育が必要です。

(歳) 思春期におけるライフイベント平均年齢(有効回答数 1,025)



出典

◆日高庸晴他、厚生労働省エイズ対策研究推進事業「ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート」

先生が、真摯に、開かれた心と姿勢で

～その子の気持ちを尊重し、教育保障・機会（経験）保障の視点で～

- ・どの教室にもセクシュアルマイノリティがいる前提で。
- ・性のありようは一人ひとり異なる。ちがいを否定せず尊重しよう。
- ・どうしてほしいかは人による。決めつけず、本人とよく話し合おう。
- ・「何者か？」より、何に困っているかに焦点を。
- ・性的指向や性別表現を笑いやウケ狙いに使わない。
- ・いじめや差別的発言に対しては速やかに対応するとともに、教育機会としましょう。

学校で見えるセクシュアルマイノリティはほんの一部です。言えない子、自覚していない子もいます。目の前の当事者に対応することとあわせ、自己否定やいじめ、生きづらさの背景にある課題を解決していく視点も必要でしょう。多様性を受け入れ、人とのちがいを尊重できる心と姿勢を育てるようにしたいものです。

何者であっても、安心して自分らしく過ごせるように環境を整えていくことが大切です。どのように生きるかを決めるのはその子自身です。そのための教育機会、経験、情報を提供できるよう支援していきましょう。

カミングアウトとアウティング

- ・カミングアウト：自分の秘密を誰かに伝えること
- ・アウティング：他人の秘密を許可なく暴露すること

困難とリスクにかかわらずカミングアウトをするのは勇気が必要です。カミングアウトを受けた場合は、そのこと自体を尊重し、傾聴しましょう。困りごとがある場合にはどうしたいのか傾聴するとともに、じっくり相談にのりましょう。

より広くカミングアウトを考えている場合には、強制や誘導がないよう十分な注意と準備が必要です。また、児童・生徒間でのカミングアウトには、された側にも配慮や援助が必要な場合があります。カミングアウトは目標ではなくスタートです。アウティングを防止するとともに、カミングアウト後も継続して、本人や受けた側への援助が必要です。

自分らしく安心して学べる学校に

○自尊感情を育む情報発信

多様な性に関する授業の取り組み
異性愛を前提としない言動
教室、図書室、保健室などに本や資料を置く

○研修や啓発

教職員対象の校内（校外）研修への実施と参加
PTA や保護者を含む研修機会
保健便りや学級通信などの活用

○環境整備

制服、水着、体操服などの自由化や選択肢の工夫
名簿やグループなど、性別で分けない工夫
「多目的トイレ」など性別に関係なく利用できる空間づくり
相談しやすい雰囲気・空間づくり
必要に応じて、専門家や当事者団体などと連携できる体制づくり

○個別相談や要望

まず話をじっくりと聞こう
どうしたいか一緒に考えよう

《性別違和のある子どもたちの場合》

- ・希望の性別での扱いを検討するとともに個別に配慮、対応が必要
- ・名前の自称を認める
- ・制服、水着、体操服、上靴などの変更
- ・男女を前提としたロッカー、靴箱、班分け、呼び方などの変更
- ・健康診断、身体測定での個室確保、順番の工夫
- ・更衣、宿泊部屋、入浴の順番の工夫、個別確保
- ・水泳はラッシュガードの着用やレポート提出で振り替えるなどを検討
- ・制服、書類の性別記載の変更
- ・多目的トイレ、職員トイレの使用

違和感や苦痛、必要なことは人それぞれです。本人とよく相談することが必要です。
また見える当事者は氷山の一角です。要望をきっかけに、環境を見直し改善していく
機会、教育研修の機会にしましょう。

表紙のマークは、市のシンボルである金魚に性の多様性を表す6色のレインボーをデザインしたもので、LGBTQ などのセクシュアルマイノリティの理解者・支援者（アライ）としてセクシュアルマイノリティを支援することを意味しています。

ALLY（アライ）

同盟や支援、協力を意味する英語の ally が語源で、当事者でない人がLGBTQ などのセクシュアルマイノリティを理解し、支援するという考えやその考えを持つ人のことをいいます。

Diversity（ダイバーシティ）

多様性を意味し、さまざまな考え方や生き方をしている人を否定せず、個々の違いを尊重し、違いを積極的に活かすことにより、より良い社会の実現を目指すことをいいます。

Inclusive（インクルーシブ）

包括的、包含しているさまを意味します。社会の構成員ひとり一人を尊重し、誰も切り捨てられないように援護し、支え合っていくことをいいます。

